

令和5（2023）年度

自己点検評価報告書

（事業計画及び実行報告書、事業計画PDCAチェック表、
授業評価アンケート集計結果、諸データ）

令和6（2024）年3月
宮崎学園短期大学

はじめに

18歳人口の減少、進学者の4大志向、専門学校志向、県外志向が上昇する中で本学の入学者数は減少してきた。入学者の出身も、卒業生の就職先も9割が宮崎県内である本学にとって、地元のニーズに応え、社会の変化に対応し「誰一人取り残さない」元気で健やかな地域社会の実現に貢献することが存在意義である。令和5年度入学生より新たに再定義した各学科学位授与の方針（学科DP）に基づき教育内容・教育方法を進化させた。同時に文部科学省より示された教学マネジメント指針をもとに本学独自の教学マネジメント体制も決定した。

現代ビジネス科では、令和7年度入学生よりこれまでの4コース編成から、様々な専門分野を横断して学ぶことができるよう、コースを再編（8コース編成）することとした。また、保育科においても、改組検討ワーキンググループを設置し、両学科ともに改革が進んでいる。これらの改革を着実に実行し、地元諸団体・諸機関、卒業生と連携して地域をリードする教育・研究・社会貢献を進め、進学希望者が憧れ、地域から信頼される短期大学を目指す。

令和5（2023）年度事業計画の骨子として、次の具体的目標に対する結果は次のとおりである。

1. 子ども主体の保育を担える保育者養成教育の実現のため、授業科目「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」を中心に附属認定こども園との往還型学習を開始したほか、令和4年度より変更している幼稚園教育実習・保育実習において指導案作成などの方法がある程度定着してきた。
2. 現代ビジネス科4コースから初めての卒業生を送る出すことができた。就職率も97.1%と高く、大学編入においては鹿児島大学への編入実績を作ることができた。
3. Society5.0に対応した教育並びに組織運営のDX促進を目指し、令和5年度入学生よりパソコン必携とし、遠隔授業以外の授業活用を推進した。また業務上においては、既存のグループウェアを使ったワークフローを活用し、いくつかの申請をWeb申請可能となった。
4. 学生主体を育てるキャリア教育の実現のため、新たに定めた学科DPのもと、保育科では実習指導及びガイダンスアワーの時間帯に、現代ビジネス科ではキャリアガイダンスⅠ・Ⅱの授業において、外部講師による講演や卒業生による講演を通して、本学で学ぶ意義や、主体的に学ぶことの重要性などの考えを学生が考える機会となった。
5. 教学マネジメント体制が確立し、令和6年度より本格稼働となった。
6. 地元団体並びに卒業生（同窓会）との連携強化を目指したが、卒業生対象としたイベント実施は実現できなかったものの、保育関連団体とは令和6年度に包括連携することで内諾を得ることができた。今後は保育者の魅力発信のために保育関連団体と連携した取り組みを進めていく。

<本年度 数値目標>

数値目標	達成状況・課題
入学定員充足率 保育科・現代ビジネス科 100% 専攻科 30人	令和6年度入学 保育科 86.1% 現代ビジネス科 80.0% 専攻科 30.0%
卒業時満足度調査「自分の成長」で90%以上	令和5年度卒業 全学 91.8% 保育科 90.9% 現代ビジネス科 90.4% 専攻科 97.9%

授業外学修時間「ほとんどしない」が10%以下	全学 11.50% 保育科 12.1% 現代ビジネス科 11.7% 専攻科 8.0%
「相談できる教職員がいる」が80%以上	全学 72.1% 保育科 68.5% 現代ビジネス科 78.1% 専攻科 100%
退学率 2%以内	全学 3.0% (9名) 保育科 3.0% 現代ビジネス科 0% 専攻科 0%
就職率 100%	就職率 99.4% 保育科・専攻科 100% 現代ビジネス科 97.1%
資料請求数 1,500件	令和5年度実績 1,049人
来学延べ数 520人 (資料請求数に対し34.7%)	547人
来学実数 338人 (来学延べ数に対し65%)	330人
出願者数 243人 (来学実数に対し72%)	206人

重点施策及び継続的重要業務

中長期計画 (2021-2030) における令和5 (2023) 年度の重点施策を下記に記す。

①教育力の向上

※「達成状況・課題」欄には「取組内容」について令和5年度に実施した内容を具体的に。

事業計画	取組内容	達成状況・課題
1. 教学マネジメントの確立 【教務部・IRセンター】	<ul style="list-style-type: none"> ・学科 DP の検証 ・カリキュラムの見直し 履修順序、履修要件、一般教育科目等 ・IRセンターを中心とした アセスメント結果の集約 ・新教学マネジメントの実行・課題の洗い出し ・積極的な情報公開 (学修成果・アセスメント結果) 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在両学科ともに、改組の計画がなされており、各WGを中心にDP・CP・カリキュラムの見直しに着手した。令和6年度中にそれに基づいた新たな学科DPならびにカリキュラムの策定が必要である。 ・各種アセスメントについては、実施後のデータをIRセンターにて分析・集約することとし、分析後は部科長会にて報告を行っている。 ・新教学マネジメントについては、令和4年度の部科長会にて承認され、本年度理事会の関係も明記したものが承認された。令和6年度は、内部質保証委員会を立ち上げ実行していく。 ・学習成果や各種アセスメントの結果は、大学HPに教学IR情報としてアップロードし、適切な情報公開を行っている。また、教職課程においては、自己点検評価を行い、全国私立大学教職課程協会の審査を受け、完了証が交付され、その報告書及び結果も公開している。 (https://www.mgjc.ac.jp/outline/information/)
2. 学生の自律的学修を促すPDCAサイクルの見直し 【教務部・学生部・IRセンター】	<ul style="list-style-type: none"> ・授業外学修の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業外学習の促進について、オリエンテーション時に、学生に対してシラバスに明記している授業外学修課題内容を踏まえて学修するよう指導している。また、その状況について学生生活調査を実施し取り組む状況を把握している。本年度は授業外学修を全くしていない割合が11.50% (昨年度25.4%) であった。

	<ul style="list-style-type: none"> ・学級主任制度の見直し ・自己の成長への満足度 90% 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生部会において、学級主任制度の必要性について協議をした。依然として学級主任制には賛否両論があった。その中で「学級主任」の呼称を検討し、大学における「学級主任」の役割を明確にする必要があるのではという結論となった。次年度は学級主任の呼称変更およびその役割について検討していく。 ・自己の成長を可視化するための一方策として、取得できる資格等を増やした。また、自己の成長を数値化するために行っている DP 自己評価においては、昨年度の回答率が低かったため、回答期限終了後に未回答の学生に対して回答を呼び掛けるなどの取り組みを行った。卒業時にはディプロマサプリメントとして成長を数値化及びグラフにしたものを配布している。自己の成長への満足度について、令和 5 年度の入学満足度調査結果によれば、91.8%と、両学科ともに満足度 90%以上を達成した。しかし、昨年度と比較すると、数値が微減しているほか、低満足層の割合も増加しており、さらなる改善が必要であると考えている。
3.学生表彰制度の見直し 【学生部】	<ul style="list-style-type: none"> ・卓越した学生への奨学金制度の効果検証 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生表彰委員会では学長賞の価値（重み）をもたせる必要があるとの考えから、本年度は学長賞受賞者数を厳選することとした。次年度は更なる学長賞のあり方を検討していく。 ・卓越した学生の奨学金制度は、給付型奨学金を利用している学生の教育効果（評価）を適格認定と併せて年度末に集計した。成績下位グループに属する学生が一定数存在し、学科長・学生部長より個別指導を行った。今後はこれらの学生への支援を効果的に行う必要がある。
4.キャリア教育の充実 【教務部】	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の研究（勤労）の検証 ・新規科目開設の必要性について検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・科目担当者において、授業内容の見直しを行っている。令和 6 年度においては、授業時間数も含めた抜本的な改善について検討する。 ・キャリア教育に関する新規開設科目については、カリキュラム検討委員会にて検討を行ったが、検討の結果授業時間の確保ができず、令和 6 年度の開設は見送ることとした。他科目との連携も含め開設の可能性を引き続き検討していく。
5.リメディアル教育（初年次教育）体制の確立 【教務部・IR センター】	<ul style="list-style-type: none"> ・初年次教育との連携 ・在学生の現状分析（基礎力リサーチ結果を用いて） 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の基礎学力の向上を図るため、基礎力向上ドリルへの取り組みを推進すべく、両学科とも学科 DP の評価項目として設定し、日頃からの取り組みに加え、初年次教育やガイダンスアワーにて実施に協力するようにした。 ・在学生の現状分析として、基礎力リサーチテストを実施している。結果については、学級主任に提示し、学生との個人面談や状況把握等に役立ててもらおうようにしてほか、IR センターで GPA や入試との関連を分析し部科長会で報告している。テストの実施時間の確保に課題があるが、次年度についてはガイダンスアワーにて実施するように進めている。

<p>6.SDGs 教育・分野横断カリキュラムの検討(国際大学と連携) 【教務部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本学の SDGs 教育に関する取組を情報発信 ・分野横断カリキュラムの検証・改善。国際大学と連携 ・MDASH プログラムの検証(オープンバッジの導入) 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs 教育に関する情報発信については、シラバス等への記載は完了したが、十分とは言えない状況である。 ・分野横断カリキュラムについては、国際大学と連携しながら、複数回の会議を行った。順次進捗しているところである。 ・MDASH プログラムについては、今年度卒業生 176 名に対し、リテラシーレベルのオープンバッジを発行した。また、学生便覧 2024 においては、「資格・称号取得にかかわる授業科目の履修方法」の欄に、別表 9 として必修科目等を明記した。
---	---	--

②保育科

事業計画	取組内容	達成状況・課題
1. 経験学習(実習、ボランティア、課外活動等)の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・附属こども園等での現地授業、往還的学習を計画的に実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・1 年次後期科目「乳児保育」において、手作りおもちゃの実践授業を附属こども園にて実施した。今後、他の授業においても計画的に往還的学習を取り入れていく予定である。
2.カリキュラムの見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・保育科教育課程見直しプロジェクト構想の具現化 ・新規取得資格の導入と確実な実施(認定絵本土、幼児体育関連、医療的ケア関連資格等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトで構想した学びの段階に合わせ、科目実施時期について見直し、組み替えを行った。令和 5 年度より実施している。 ・新規取得科目の導入を行い、認定絵本土 27 人、発達障がい児サポーター 35 人、幼児体育指導員 15 人が認定された。医療的ケア児支援士については令和 6 年度実施に向け推進中である。
3.附属こども園との積極的連携	<ul style="list-style-type: none"> ・附属認定こども園との協同研究や勉強会の開催 ・こども理解プロジェクトの推進 ・保育科内での研修報告会や定期的な情報交換会の実施 ・附属こども園等での現地授業、往還的学習を計画的に実施(再掲) 	<ul style="list-style-type: none"> ・こども理解プロジェクトについて、現場での観察・研究を継続中である。学会研究発表等の実績も継続して行っている。 ・外部講師を招聘して保育科学科研修を年に 1 回開催し、最新の保育の学びを継続中である。 ・今年度、定期的な情報交換会の実施には至らなかった。令和 6 年度は各教員の研修報告会を実施予定である。
4. 県内保育団体と連携した保育力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・県内保育団体との連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育科 3 年制コース開始に伴う連携や潜在保育士に対するアプローチについて令和 6 年連携協定の締結に向けて準備中である。
5.教員の研究活動(文献・外部でのフィールドワーク等)の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・こども理解プロジェクトの推進(再掲) ・保育科内での研修報告会や定期的な情報交換会の実施(再掲) 	<ul style="list-style-type: none"> ・こども理解プロジェクト・学会内研修報告会については 3 に同じ。 ・教員の研究活動の促進について、学会等の参加を促すとともに研究発表についても継続的に取り

		組めるよう情報交換を行いたい。
6.外部アセスメント結果に基づく学生の基礎学力向上 (初年次教育の発展)	<ul style="list-style-type: none"> ・宮短基礎力向上ドリルの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部アセスメント結果の個別フィードバックは行っているものの学生の基礎学力向上に向けた体系的な取り組みには至っていない。 ・情報系の授業において、ドリルの活用を行っているが、学生の意識向上に結び付ける取り組みとなるよう学科で仕組みを構築する必要がある。
7. 学生の ICT 活用能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT を活用した新たな教授法の研究 (保育業務システム・MDASH) ・パソコン必携となった学生に対する ICT 教育及び授業での活用法の研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報処理の授業において継続して取り組んでいる。 ・パソコンの授業での活用について、学科で共通認識しているが、未だ充分ではない。学生自身が活用できるよう各授業で取り組みの工夫が必要である。
8.実習指導体制の発展・実習指導内容の見直し(卒業生・経験者による指導)	<ul style="list-style-type: none"> ・実習指導の手引きの改善 ・実習参加要件の厳格化 ・卒業生・経験者による指導 ・実習日誌や記録などの改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習参加要件の厳格化について令和 5 年度に内容を整え、令和 6 年度より実施予定である。 ・実習日誌について、ドキュメンテーション型日誌の指導を行い、実習先でも実践させていただいている。指導の充実のために県内保育施設への情報発信と連携が必要である。
9.地域子育て支援への貢献 (社会人対象講座の開設・子育て相談室開設) (前倒し実施)	<ul style="list-style-type: none"> ・最先端外部講師を招聘し、学生向けの講演会の実施 ・保育・幼児教育センターでの講演や講習の計画的実施と発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・大豆生田啓友氏による保育科講演会、お茶の水女子大学教授 宮里暁美氏による特別講演会を実施し、県内保育関係施設への情報発信を行った。 ・幼児教育・保育センターでは地域子育て支援の一環として、親子コンサートを開催した。今後、リカレント教育等の講座の企画・立案を行い県内保育充実への貢献を行いたい。
10. 学生募集	<ul style="list-style-type: none"> ・入試広報部と連携した出前授業、進路ガイダンスの積極的参加 ・学科教員による高校訪問 ・中学生などへの保育の魅力を伝えるイベントなどへの参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・入試広報部より依頼のあった出前授業・進路ガイダンスについてはすべて学科教員で分担して参加した。また、学科独自の高校訪問は時間確保が難しく取り組めなかったが、入試広報部企画の高校訪問に全教員が参加した。 ・中学生対象の「ゆめパーク」に参加し、県内中学校 2 校で実施した。

	<ul style="list-style-type: none"> ・高大連携の強化 ・専攻科への学科推薦制の充実と情報伝達 	<ul style="list-style-type: none"> ・高大連携について連携科目担当教員より受験に繋がるようアプローチを行なっている。 ・専攻科学科推薦について、専攻科主任と学科長で事前面談を行い学科推薦までの経過をサポートした。
--	---	---

③現代ビジネス科

事業計画	取組内容	達成状況・課題
1.学科の専門性の充実と魅力づくり	<p>教育課程の抜本的見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コース選択時期の検証 <p>・カリキュラム体系等の変更・定期的見直し</p> <p>新たな教育手段の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門教育科目・必修科目の見直し（魅力ある授業科目の開発） ・専門科目配置の見直し ・企業と連携した長期現場研修（デュアルシステム）導入 ・四大編入推進 <p>海外研修の導入検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現代ビジネス科改組ワーキンググループを立ち上げ、現在の4コースから8コースへの変更を決定し、その広報なども進んだ。 ・4コース実施に向けてカリキュラムなど体制整備を行っていく必要がある。 ・社会的に需要の見込めない科目、受講者の少ない科目は、整理統合する必要がある。 ・長期現場研修を導入したカリキュラムを整備した。 ・四大編入については、鹿児島大学農学部1人、放送大学1人（4人中2人）の結果であり、コースとしての結果に繋げることはできなかった。スキルアップユニットへの移行を踏まえ、実績を上げておく必要がある。 ・グローバルコース設置に向けて、引き続き海外研修計画を進めていく必要がある。
2.キャリア教育と進路支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・初年次教育の充実（宮短基礎力向上ドリルの活用等） ・学生サポート体制の見直し（た） ・資格、検定取得の促進 ・学生の職業的自立支援の充実 ・国際大学との連携による編入学のための英語力強化 ・コース担任制の導入によるきめ細やかな進路支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・宮短基礎力向上ドリルの取り組み状況を教員が把握し、ガイダンスアワーなどの時間を通じて活用するように促した。 ・1年生は学級主任、副主任を中心に、入学後の早い時期からコース決定を促し、専門教育への接続を図った。 ・就職に有利な資格を中心に、非常勤講師の協力を得て、多くの資格取得ができています。 ・学科会等を通して学生の情報共有を図り、学科教員すべてが、職業的自立支援に取り組んだ。 ・編入希望の学生には積極的に英語力をつけるように促した。 ・コース担任は、進路支援に意欲的に取り組んだ。

④専攻科
(福祉専攻)

<p>3.学科ブランディングの推進 学科イメージの可視化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習成果の見える化による内部質保証システム構築 ・魅力ある授業動画の配信 ・在学生・卒業生のイメージ動画化（就職先等） ・高大連携強化 ・地域活性化人材育成事業～SPARC～における、横断的なSTEAM教育を基盤とした教育プログラムの構築・実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオの有効活用なども含め、今後も継続して検討していく必要がある。 ・「礼節」に関連する動画をアップした。 ・高校訪問の際に卒業生の写真入りメッセージを持参するなどの継続可能な方法で、広報力をつけていくことが必要である。 ・三股町、福島高校、延岡星雲高校など、連携が進んだ。今後も積極的に進めていく必要がある。 ・8コース制を踏まえて、具体的な教育プログラムを構築する必要がある。本事業の内容を学科全体で共有する必要がある。
<p>4.定員充足</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入試広報部と連携した高校訪問、出前授業の実施 ・学科所属教員による高校訪問 ・学生の出身高校訪問 ・募集拡大重点校訪問（普通科、宮崎市内、日豊本線沿線、児湯、県北、都城、） ・高校開拓（鹿児島県内、熊本県内） 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校訪問、出前授業、進路説明会に積極的に参加した。 ・前期を中心として、学科教員全員で高校訪問を実施した。 ・学生の出身高校訪問は時間確保が難しく、実施できなかったが、教員が在学生の動向を報告することはできた。 ・普通科、宮崎市内、日豊本線沿線、児湯、県北、都城について、訪問することができた。 ・鹿児島県内、熊本県の高校訪問を夏休み期間中に実施した。
<p>事業計画</p>	<p>取組内容</p>	<p>達成状況・課題</p>
<p>1.幅広い教育方法の検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した社会人教育等 	<ul style="list-style-type: none"> ・在学生に対しては、国家試験対策として、zoomを活用した個別指導を行った。また修了研究発表会に向けてのプレゼン準備において情報機器を活用したが、社会人教育と言える具体的な取り組みは行っていない。
<p>2.資格取得</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士国家試験全員合格 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年3月修了生25人全員合格し、合格率100%を6年連続達成している。
<p>3.定員充足</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育科教員との情報共有 ・専攻科の魅力の伝達強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・2年学年会を中心に募集活動(専攻科案内・相談会・個別相談等)を行ったが最終的には定員に達せず15人の進学者数であった。次年度は学外からの受験者を数名でも獲得できるよう募集活動を行いたい。

⑤経営改善

<p>事業計画</p>	<p>取組内容</p>	<p>達成状況・課題</p>
-------------	-------------	----------------

1.ブランド力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史・伝統の強みを活かした卒業生の活躍を可視化した広報（学校案内やオープンキャンパス等への卒業生参加促進） ・高校生・保護者のニーズに適した広報媒体・体制の検討（HP及びDMの工夫） ・専門性を生かした高大連携（探究活動の時間との連携、教員の派遣） ・保育科への男子学生獲得強化 ・県外高校生に対する情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校案内の中で12人、オープンキャンパスで3人の卒業生に大学在学時の取組と現在の職場での状況等を紹介してもらう機会を設けた。 ・保護者向けにリーフレットを作成したり、HP内に保護者のページを設けた。オープンキャンパスや受験の案内で年5回のDMを送付した。 ・探究活動の連携や出前従業として39回の教員派遣を行った。 ・男子入学生が保育科13人で1割にも満たなかった。県外からの入学生も両学科で7人と少なく、次年度は募集を強化したい。
2.卒業支援強化による他大学との差別化	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームカミングデーの実施 ・講師・講座バンクの公開（継続） ・卒業生への再就職先支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームカミングデーの開催までに至らなかったが、同窓会誌に卒業生への再就職支援について掲載した他、令和6年度よりリカレント・リスキリング教育の一環として「子どもと絵本Ⅰ・Ⅱ」を開講することが決定し、広報活動を行った。次年度はリカレント・リスキリング教育をさらに拡充させるよう検討したい。

⑥運営体制の改善

事業計画	取組内容	達成状況・課題
1.教員組織の整備 【教務部・研究推進委員会】	<ul style="list-style-type: none"> ・教職課程認定等に対応できる研究の推奨 ・将来を考えた教員組織への提案 ・科研費獲得の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・課程認定にかかる教員については、対応できるような研究業績を積むよう、個別にアナウンスを行った。また、学長裁量経費による研究費助成など、研究に取り組む環境を整備し、研究を奨励している。 ・将来を考えた教員組織への提案として、教員公募の際には、現時点で不足する分野のみならず、将来不足するであろう分野を中心に対応できる人材を求めたが、保育科においては採用につながらなかった。 ・科研費の獲得については、総務課より科研費に関する情報を都度メールにて全教員にアナウンスした。チャレンジする教員もいたが、採択にはつながらなかった。
2.新制度による入学者選抜に関する見直しと整備 【教務部・入試広報部】	<ul style="list-style-type: none"> ・選考方法（書類審査における評価の見直し） ・奨学金制度の検証 	<ul style="list-style-type: none"> ・入試選考の基準に合わせた書類審査の評価方法を改善した。 ・学園高校出身者の奨学生制度について、改定案を作成した。

<p>3.学生募集体制の見直し 【入試広報部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職協働による計画的かつタイムリーな高校訪問（教員による高校訪問の強化） ・地区別進学説明会の実施 ・高校教員対象説明会の実施（高校教員とその高校出身在学生との対談機会の設定） ・月1回の週末見学会の実施（保育科） 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員に担当校を割り当てて、高校訪問を行った。 ・6月に地区別進学説明会と高校教員対象説明会を実施した。高校訪問だけでは伝えられない入試情報の提供や出身学生との面談は効果を感じている。 ・月1回の週末見学会では、毎回学科の教員も参加し、説明している。
<p>4.ブランディング強化のための広報活動の充実 【入試広報部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・WEB・SNS 広告による認知度向上（閲覧状況の分析結果に基づく費用対効果のある情報提供） ・HP 他、公式 SNS の内容充実等 	<ul style="list-style-type: none"> ・HP の閲覧は令和4年度が213,079PVに対して令和5年度は219,182PVと増加。WEB 広告の表示回数は令和4年度9,105,614に対して令和5年度は10,002,959と増加し効率的な配信となった。SNS の各フォロワー数も Instagram 1,131、LINE 1,147、X 364、TikTok 652 である。次年度はHP 来訪から資料請求・OC 予約に繋がるような情報の更新、SNS 登録者からの出願促進フォローを実施していきたい。
<p>5.特性や障害等のある学生への支援体制の充実 【学生部（学修支援推進委員会）】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・早期発見・支援のための情報収集（学級主任・学修支援推進委員会との連携強化） ・教職員相互の連携を密にした支援体制の確立（全学的研修会の検討） ・外部機関との連携を密にした支援体制 	<ul style="list-style-type: none"> ・入試手続き時に合理的配慮を申請した生徒の情報を受けて、必要な事例については入学式前に学生・保証人とのケース会を行い、入学に向けてのスムーズな移行支援につなげることができた。 ・新入生は入学後に学修支援推進委員会のリードで、できるだけ早い時期にケース会議を行い、合理的配慮を申請した学生と保証人、学級主任、学科コーディネーターで協議を行い、合理的配慮の内容について合意形成を図った。 ・3月13日（水）のFD研修会で、「気になる学生支援」についての研修をし、短大での講義や学生指導での具体的支援について、学内の共通理解を図る予定である。 ・外部機関との連携については、今年度は必要な事例がなかった。
<p>6.大学事務職員としての専門性向上チーム設置（大学・短大） 【事務局（SD 推進委員会）】</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・専門性向上チームの設置には至っていない。

7.日常業務スキルアップ研修の実施（大学・短大） 【事務局（SD推進委員会）】		・「就職支援」「情報セキュリティ」をテーマとして外部講師を招聘し研修会を実施した。また「ハラスメント事案への対応」について、オンデマンド配信を個別に視聴する方法による研修を行った。
8.施設設備の計画的な維持管理 【事務局（総務部）】	・宮崎国際大学との共有施設・備品等のシステムを活用した管理方法の検討	・大学事務局長と密な連絡をとることにより管理することができた。
9.業務内容の改善・効率化推進 【事務局】	・宮崎国際大学との事務統合にかかる情報共有（継続） ・ワークフローシステム導入による効率化推進	・事務統合による情報共有については、意識の改革が容易でなく課題が山積している。 ・ワークフローシステム導入についての検討会を経て、次年度から稼働できることとなった。

3. 中長期計画 数値目標

<KGI>

		目標値	R5 年度実績
1	学科収容定員充足率	100%	80.8% (R6.4月)
2	経常収支差額比率	+15%	
3	卒業時学生満足度全項目	100%	平均 89.4%
4	就職先満足度	100%	平均 76.0%
5	就職率	100%	99.4%
6	保育科社会人*入学者比率	5%	3.22%
7	保育科男子学生比率	20%	7.81%

*社会人 入学時点で20歳以上のもの

<KPI>

		目標値	R5 年度実績
1	2023 年入学者選抜受験者数	350 名	209 名
2	2025 年度私立大学等経常費補助金交付ランキング	20 位以内	49 位
3	主体的学修を図る評価指標、学修成果の測定	※指標検討中	—
4	2025 年卒業時「授業満足度」	100%	88.6%
5	2025 年卒業時「2 年間の自分の成長」満足度	100%	91.8%
6	2025 年度資料請求	2100 件（年間）	1,049 件
7	2025 年受験予定来学者数	540 名（年間）	330 名

令和元（2019）年度に受審した認証評価において、早急に改善を要すると判断される事項として、「評価の過程で、教育課程編成・実施の方針及び入学者受入れの方針が学科ごとに定められていないという問題が認められた。当該問題については、機関別評価結果までに改善されたことを確認した。今後は、適切な自己点

検・評価を行い、継続的な教育の質保証により一層取組まれたい。」と記されている。

⑦認証評価における指摘事項等を踏まえて

向上・充実のための課題	取組内容	達成状況・課題
①適切な自己点検・評価の実施	・新たな自己点検・評価票（ティーチングポートフォリオ）の実施	・自己点検・評価票（ティーチングポートフォリオ）の見直しを行い、自己評価しやすいよう工夫した。来年度は教学マネジメントと連動して更なる改訂を行う予定である。
②継続的な教育の質保証の取組み	・教学マネジメント体制の確立	新たな体制での教学マネジメントが確定することができた。次年度より確実に実行し、次の認証評価に備えたい。

<2023 年度前期授業評価アンケート集計結果>

1. 令和 4 年度授業評価報告

1) 設問内容：

設問 1 私はこの授業にきちんと出席し、熱心に取り組んだ。

設問 2 先生は授業の学習目標をわかりやすく、はっきり示していた。

設問 3 授業の内容は興味深く、気づかされ、考えさせられることが多かった。

設問 4 授業は重要なポイントが明確で、わかりやすかった。

設問 5 先生は、学生が理解できるように周到な準備をし、授業方法を工夫していた。

設問 6 先生の声は明瞭で聞き取りやすかった。

設問 7 先生は、学生の反応をしっかり受け止め、必要なときは適切な指導・助言をしてくれた。

設問 8 この授業を受講してよかった。

設問 9 シラバス・授業科目内容の授業目標は達成された。

設問 10 担当教員より指示がある場合のみ解答してください。

設問 11 この授業のどの点が良かったと思いますか。

設問 12 この授業について、もっとこうしてほしいなどの要望があれば書いてください。

設問 13 あなた自身の授業への取り組みの様子や授業についての感想など、自由に書いてください

(2) アンケート調査結果（前期）

1) 設問 1～9 の回答数と評価結果

- ・回答数（回答率）：3974 件（45.6%）
- ・授業評価平均点：4.86（前年度 4.85）



図1 授業評価点と科目数

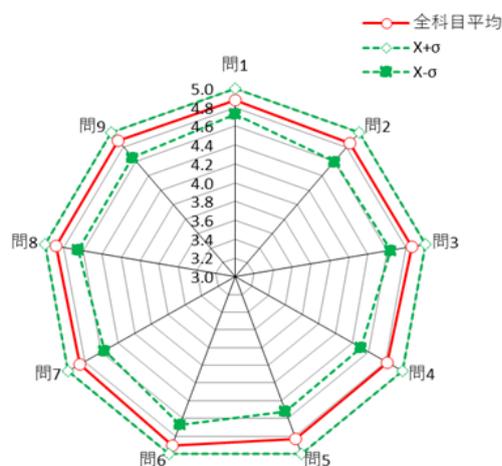


図2 2023年度前期授業評価（全科目平均）

表 1 設問 1～9 の評価結果

設問	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	全問平均
全科目平均	4.88	4.85	4.86	4.82	4.83	4.91	4.85	4.88	4.89	4.86
標準偏差	0.15	0.25	0.23	0.32	0.31	0.23	0.29	0.23	0.23	0.24
回答数	3974	3974	3974	3974	3974	3974	3974	3974	3974	3974
未回答数	1812	1812	1812	1812	1812	1812	1812	1812	1812	1812
回答率%	45.6	45.6	45.6	45.6	45.6	45.6	45.6	45.6	45.6	45.6

(3) アンケート調査結果（後期）

1) 設問 1～9 の回答数と評価結果

- ・回答数（回答率）：1158 件（21.5%）
- ・授業評価平均点：4.86（前年度 4.80）

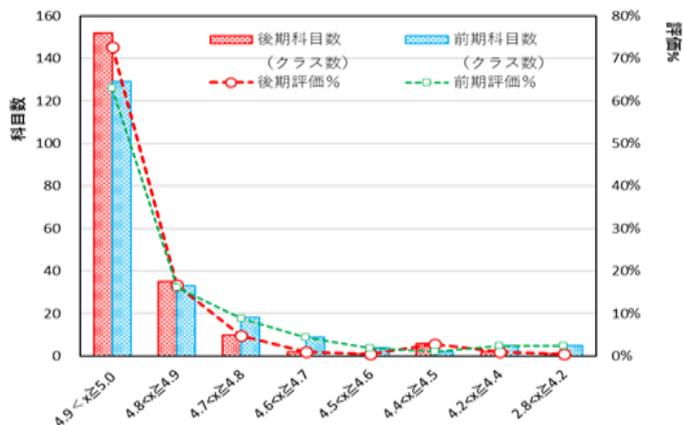


図1 授業評価点と科目数

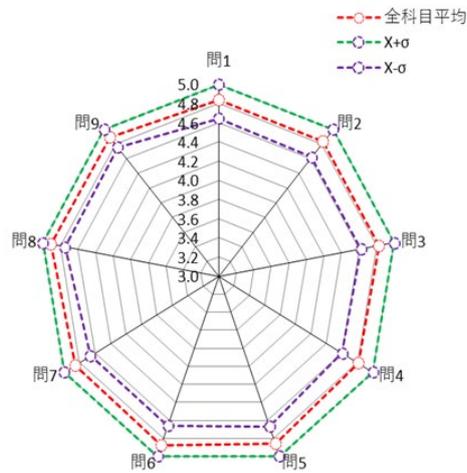


図2 2023年度後期授業評価（全科目平均）

設問	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	全問平均
全科目平均	4.84	4.83	4.82	4.81	4.86	4.88	4.86	4.91	4.89	4.86
標準偏差	0.19	0.21	0.20	0.21	0.19	0.22	0.20	0.16	0.13	0.17
回答数	1158	1158	1158	1158	1158	1158	1158	1158	1158	1158
未回答数	4218	4218	4218	4218	4218	4218	4218	4218	4218	4218
回答数率	21.5	21.5	21.5	21.5	21.5	21.5	21.5	21.5	21.5	21.5

表 2 設問 1～9 の評価結果

令和5（2023）年度諸データ

令和5年度 入学者数、收容定員、在学者数
(令和5年5月1日現在)

入学者

学科	定員	入学者
保育科	210	157
現代ビジネス科	50	49
専攻科(福祉専攻)	50	25

收容定員

学科	1年		2年		計		定員充足率 (%)	
	定員	現員	定員	現員	定員	現員	総現員/総定員	入学者数/入学定員
保育科	210	157	210	143	420	300	71.5	74.8
現代ビジネス科	50	49	50	38	100	87	87.0	98.0
本科計	260	206	260	181	520	387	74.5	79.3

学科	定員	現員	定員充足率 (%)
専攻科(福祉専攻)	50	25	50.0
専攻科計	50	25	50.0

教員一人当たりの学生数(本科・専攻科)

(専攻科は保育科2年生に含む)

学科	1年	2年	計	専任教員数	比率
保育科	157	168	325	25	13.0
現代ビジネス科	49	38	87	7	12.4
本科計	206	206	412	32	12.9

入学者数の推移
(令和5年5月1日現在)

入学者

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
保育科	197	202	186	154	157
現代ビジネス科	38	30	42	38	49
学科計	235	232	228	192	206

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
専攻科(福祉専攻)	14	25	25	11	25

退学・除籍者数
(令和6年5月1日現在)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
保育科	18	9	8	18	9
現代ビジネス科	2	5	5	1	0
本科計	20	14	13	19	9
うち除籍者数	3	3	2	2	0
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
専攻科(福祉専攻)	0	1	0	1	0

中退率

(各年度 在学者数は5月1日現在)

	令和元年度			令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
	在学者数	退学者数等	率												
保育科	408	18	4.4	391	9	2.3	385	8	2.0	334	8	2.3	300	9	3.0
現代ビジネス科	75	2	2.6	67	5	7.4	71	5	7.0	78	5	6.4	87	0	0.0
学科計	483	20	4.1	458	14	3	456	13	2.8	412	13	3.1	387	9	2.3

	令和元年度			令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
	在学者数	退学者数等	率												
専攻科(福祉専攻)	14	0	0	25	1	4	25	0	0	11	1	9	25	0	0

卒業生の学位(短期大学士)取得者数

(令和6年5月1日現在)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
保育科	205	201	183	194	173	138
現代ビジネス科	44	36	33	27	40	38
合計	249	237	216	221	213	176

過去5カ年の資格取得動向 ～令和元年（2019）年度から令和5年（2023）年度～
（単位：人数）

		令和元年 2019年度	令和2年 2020年度	令和3年 2021年度	令和4年 2022年度	令和5年 2023年度
保 育 科	短期大学士（保育学）	201	183	194	173	138
	幼稚園教諭（2種）	193	169	194	170	134
	保育士	192	177	194	171	136
	こども音楽療育士	18	21	13	6	11
	音楽療法士（2種）	30	20	26	22	14
	発達障がい児サポーター					36
	社会福祉主事任用資格	201	183	194	173	138
	数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）					138
	防災士				2	2
	ベビートイ2級					22
キッズトイ2級					12	
現 代 ビ ジ ネ ス 科	短期大学士（現代ビジネス学）	36	33	27	40	38
	司書資格	7	7	3	12	13
	実践キャリア実務士	25	29	24	30	35
	上級ビジネス実務士	14	12	13	3	11
	ビジネス実務士	0	2	0	19	12
	情報処理士	14	15	25	26	23
	上級秘書士（メディカル秘書）	20	16	12	11	10
	プレゼンテーション実務士				20	11
	日本医師会認定医療秘書	20	14	12	11	10
	社会福祉主事任用資格	36	30	11	22	13
数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）					38	
防災士				0	3	
専 攻 科	専攻科（福祉専攻）修了	14	24	25	10	25
	介護福祉士	14	24	25	10	25

* 平成29年度より介護福祉士取得に国家試験が課されています。

令和5年度 宮崎学園短期大学(令和6年3月19日卒業・修了)就職・進路状況表

卒業・修了者数	就職希望者数	就職者数	就職未定者数	就職率
201名	181名	180名	1名	99.4%

★進学19名(大学編入2名、大学・短大進学2名、専攻科など内部進学15名)

学科別就職状況

学 科	保 育 科	現 代 代 理 業 科	専 攻 科	合 計
卒 業 者 数	138名	38名	25名	201名
就 職 希 望 者 数	121名	35名	25名	181名
就 職 者 数	県内	30名	23名	165名
	県外	4名	2名	15名
就 職 率 (%)	100.0%	97.1%	100.0%	99.4%
就 職 未 定 者	0名	1名	0名	1名

過去10年間の卒業時満足度推移

(数値：%)

年度	入学満足度	授業	先生との出会い	友人との出会い	事務職員の応対	自己の成長
2013	83.5	76.4	83.2	94.3	67.1	81.8
2014	85.8	79.3	85.1	95.6	70.6	85.3
2015	84.4	79.3	83.6	92.9	70.5	83.4
2016	85.9	80.2	85.3	95.1	70.0	85.1
2017	77.7	71.8	73.2	88.5	66.6	79.6
2018	82.6	77.6	81.0	92.6	72.6	81.1
2019	81.3	76.7	82.1	92.9	73.6	82.7
2020	90.6	88.1	92.0	95.9	86.8	91.7
2021	88.2	86.2	88.7	94.4	84.0	90.2
2022	90.9	87.8	91.0	94.3	83.7	92.5

卒業時満足度推移（過去10年間）

